

会員のコーナー

「大日本沿海輿地全図」完成から 200 年

伊能忠敬の没後、1821 年に幕府天文方の手で「大日本沿海輿地全図」として完成させました。伊能家が幕府に献上して 200 年を迎え、つい先日にも日本列島を 3 枚に収めた「小図」（幕府に収めた大図、中図、小図のうち縮尺が一番小さい図）副本が見つかったとの報道がありました。その地図の正確さと芸術的ともいえる出来栄は目を見張るものがあります。

伊能忠敬は 49 才で家業を退き隠居、50 才で江戸に出て高橋至時に暦学・天文学を学び、緯度 1 度の距離を知りたいがため、蝦夷地に測量に行きました。蝦夷地測量では合計 180 日かけて 3,200 キロメートル歩き、74 回の天体観測をしました。

当初は自費で行っていましたが、幕府に認められ 80 パーセントは幕府事業として遂行されました。所謂公共事業でしょうか。完成後「大日本沿海輿地全図」をもとに「官板実測日

本地図」等多くの地図が作成されました。

伊能忠敬が作成した日本地図は、大きく分類すると「大図」(1/36,000 : 214 枚)、「中図」(1/216,000 : 8 枚)、「小図」(1/432,000 :

3 枚)。大図は実測図で、これを縮小して中図、小図が作られました。

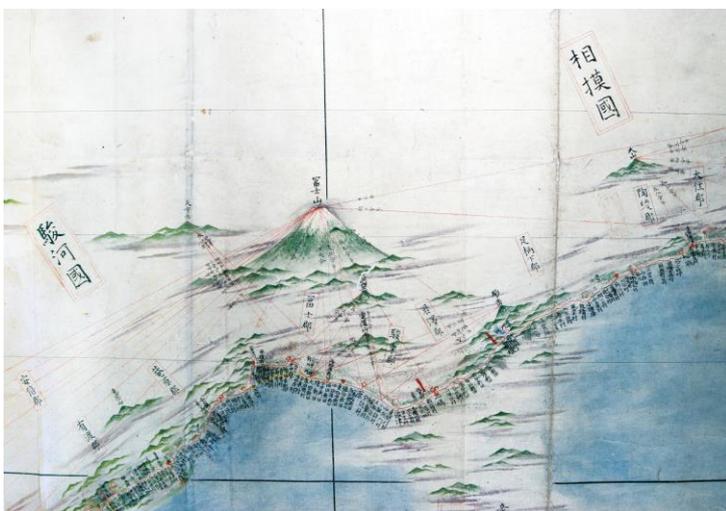
小図は、日本列島が 3 枚で表されていて、実際の測量地点を示す針穴や細かく表記された詳しい地名など、伊能忠敬の地図の特徴を見られるとのこと。

全国を測量し「大日本沿海輿地全図」を完成させた偉人として有名な伊能忠敬の出生地、

旧宅、記念館等があるととてもゆかりの深い千葉県で同じ地図を作成する者としてはとても誇らしく思います。精度的には現在の測量技術の方が良いと思いますが、200 年を経過した現代でもその功績が高く評価されることは、我々も日々の測量に真剣に向き合い、関わるのがいかに大事であるかと考えさせられます。



佐原駅前に完成した伊能忠敬翁銅像 香取市 HP より



中図 富士山付近 文化元(1804)年作 縮尺 216,000 分の 1 (東日本半部沿海図の一部)伊能忠敬記念館(香取市)所蔵

(株式会社新葉測量 片野 正彦)